

奈良市の観光招致とそれに伴う宿泊施設の増加

二回生 石丸 康太朗

1. はじめに

奈良県は全国でも3番目に国宝・重要文化財の多い県（2014年8月現在 サライ9月号より）であり、また観光客数も近畿¹では大阪や京都、兵庫に次いで4番目に位置している。しかし、奈良県への宿泊客数だけでみると、全国で46番目、ホテル・旅館の総客室数においては47番目となっている（奈良県政報告会講演資料，2014/4）。これらの事から奈良県は現在、宿泊客の増加を目指しているという話を伺った。奈良の有名な観光エリアは奈良市の東大寺や興福寺などが挙げられる。しかし、奈良県の西部には法隆寺や斑鳩神社などが存在し、東部には飛鳥寺や橿原神宮なども存在する。故に奈良県は東大寺などの一部の地域だけをアピールするのではなく、1日だけではまわりきれないような県全体の魅力をPRしている。

このように奈良県は有名どころの東大寺だけでなく、県全体を数日かけてまわるような観光政策をとってきた。その中で東大寺などが存在する奈良公園のある奈良市にはどのような魅力が存在するのか。本稿では、奈良市を調査対象地域に絞り、奈良県庁観光プロモーション課、奈良市役所観光経済部、奈良市の宿泊施設からのヒアリングや文献をもとに、2章では奈良市の宿泊施設数の増減の原因を考察し、3章では宿泊客数増加にむけた奈良市の政策について、4章ではホテルや旅館の実際に行っていることについて述べる。

2. 奈良市の宿泊施設の増減

奈良市も宿泊施設数は少ないが、奈良の客室数200室以上のホテルの稼働率は全国平均を大きく上回っている。(奈良県政講演会資料より)

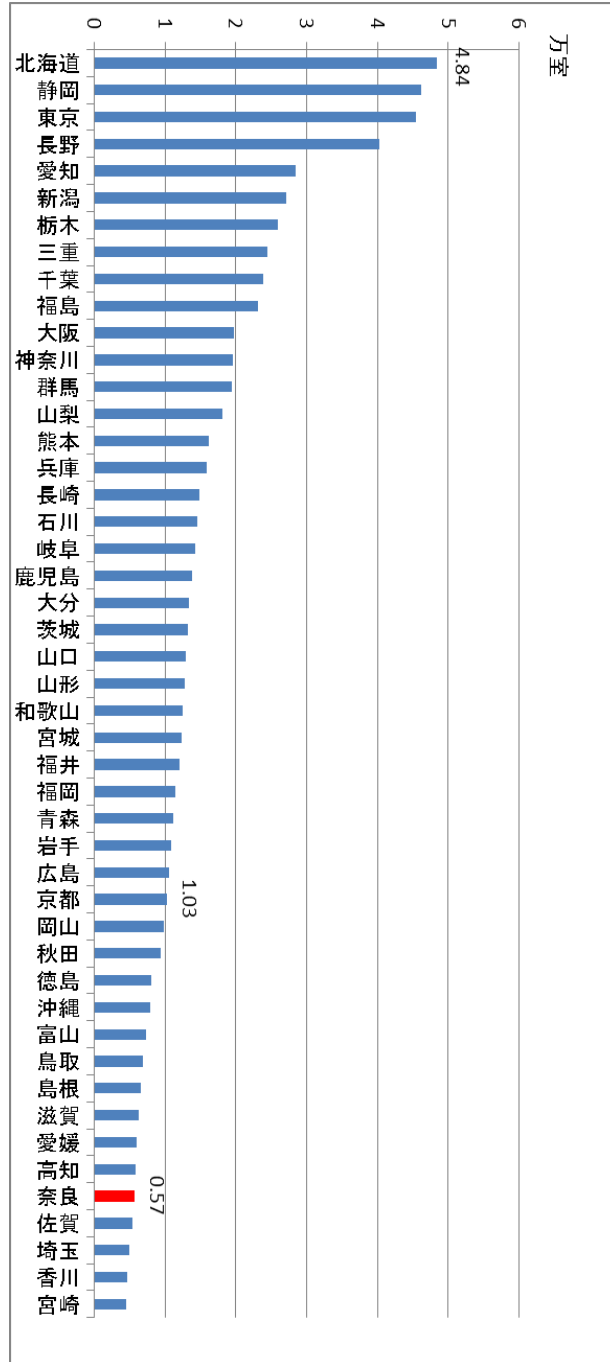


図1 旅館の客室数の全国比較 (2012)

資料 厚生労働省 衛生行政報告例 (2012) より作成

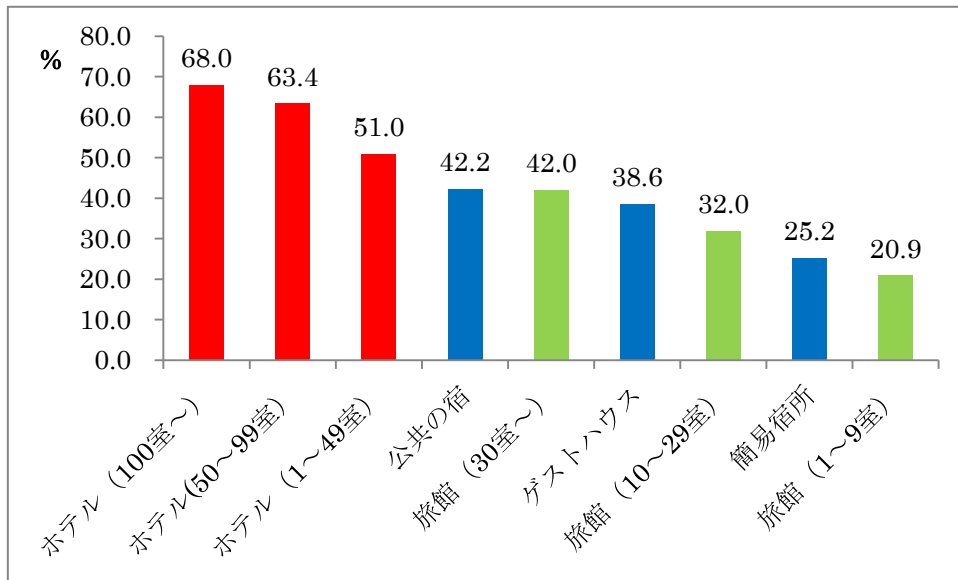


図2 奈良県内宿泊施設の「業態別」客室稼働率

資料 奈良県宿泊統計調査 (2012) より作成

図1は県別の旅館の客室数の全国比較だが、奈良県は全国43番目となっており、近畿のなかでも最下位となっている。

実際に宿泊客が少ないため、新たにホテルを建設しても数少ない宿泊客を他の宿泊施設との奪い合いになり、十分な集客数を見込めないことから、新たなホテル産業が参入しにくいものと考えられる。その結果、既存の宿泊施設に観光客が集中していると考えられる。図2は奈良県内における宿泊施設をそれぞれ業態別に分類し、その稼働率をグラフに表したものである。これによりホテルと旅館²⁾(電話帳をもとに判断)の稼働率を調べると、ホテルは規模に関わらず一定の客数を確保できているが、旅館は規模が小さくなるにつれて稼働率は低くなっていった。しかし、旅館によっては夏や冬は営業を行わないため、旅館の稼働率がすべてというわけではない。ただ、旅館は1989年頃から建物の老朽化や後継者不足によって数が減少してきている。一方で、ホテルは大型チェーンなどが参入してきており、増加している。(表1)

表1 奈良市におけるホテルと旅館の増減

資料NNT (2014)「タウンページ 奈良市」・「タウンページ 奈良市 (1994) より作成

	1994	2014	増減
ホテル	40	43	7.5%増
旅館	87	39	55.2%減

図3と図4は奈良市における1994年と2014年の旅館の分布図である。1994年には87件存在していたが、2014年には37件に減少している。また、近鉄奈良駅周

辺以外の旅館が閉店している。

図5と図6は奈良市における1994年と2014年のホテルの分布図である。ホテルは旅館と逆に40件だった1994年に比べ、2014年は44件とやや増加している。ホテルはJR奈良駅や近鉄の新大宮駅の周囲に大幅に新設され、6件から11件とほぼ倍増している。

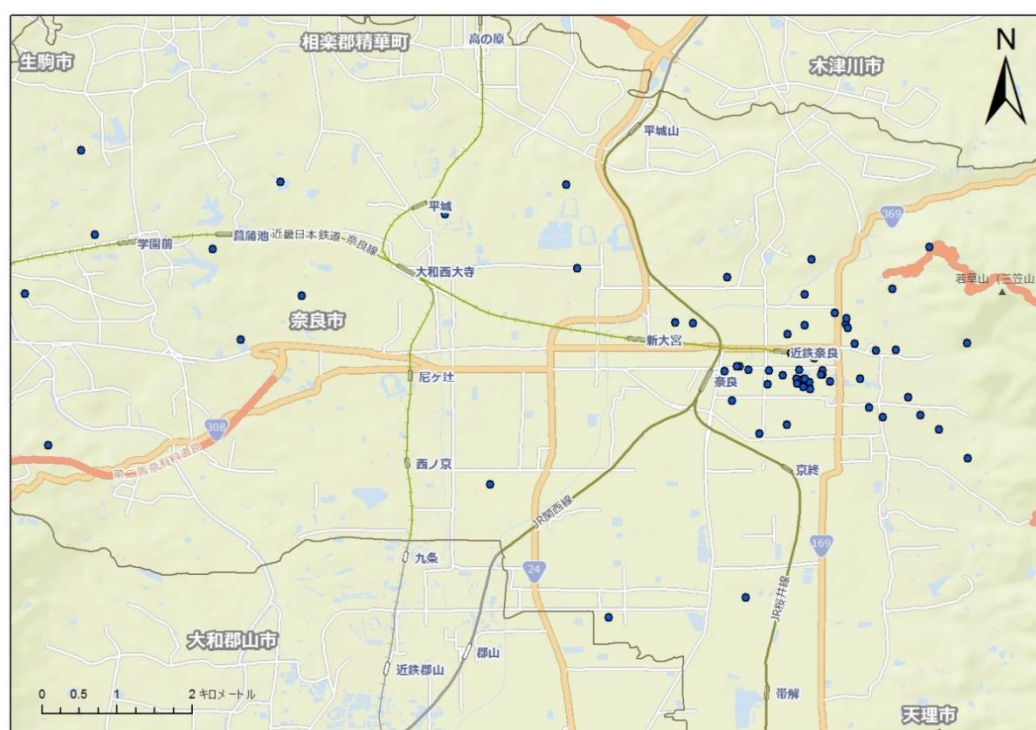


図3 奈良市における旅館の分布図（1994）

資料 NTT（1994年）「タウンページ 奈良県北部」より作成

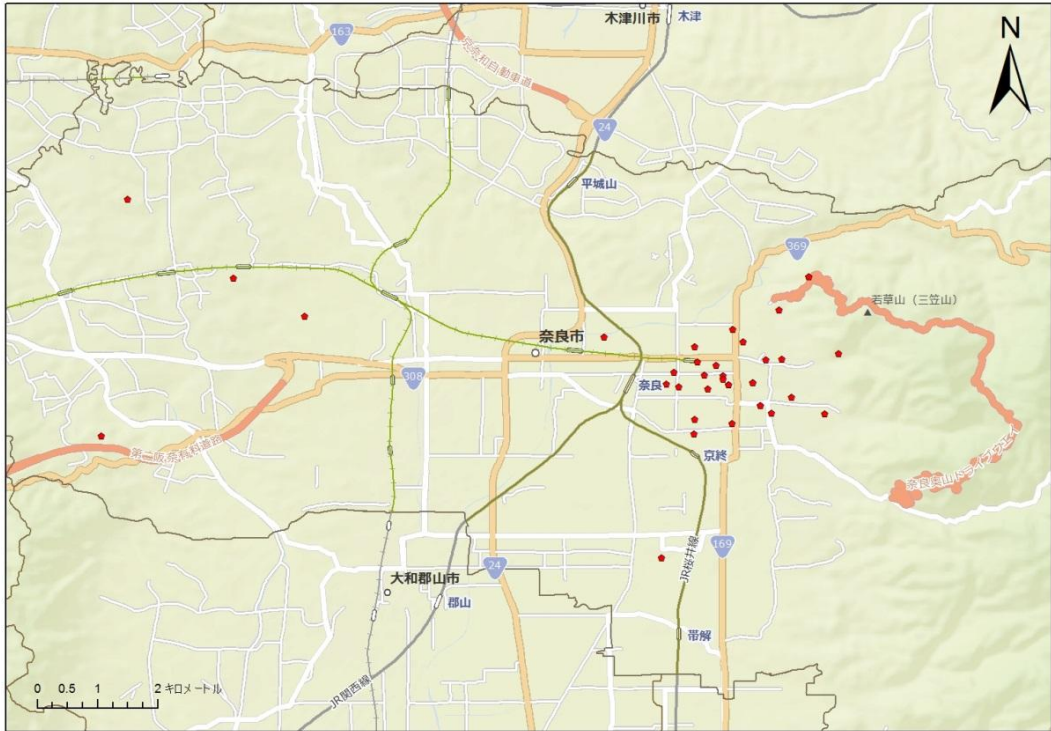


図4 奈良市における旅館の分布図（2014）

資料 NTT（2014年）「タウンページ 奈良市」より作成

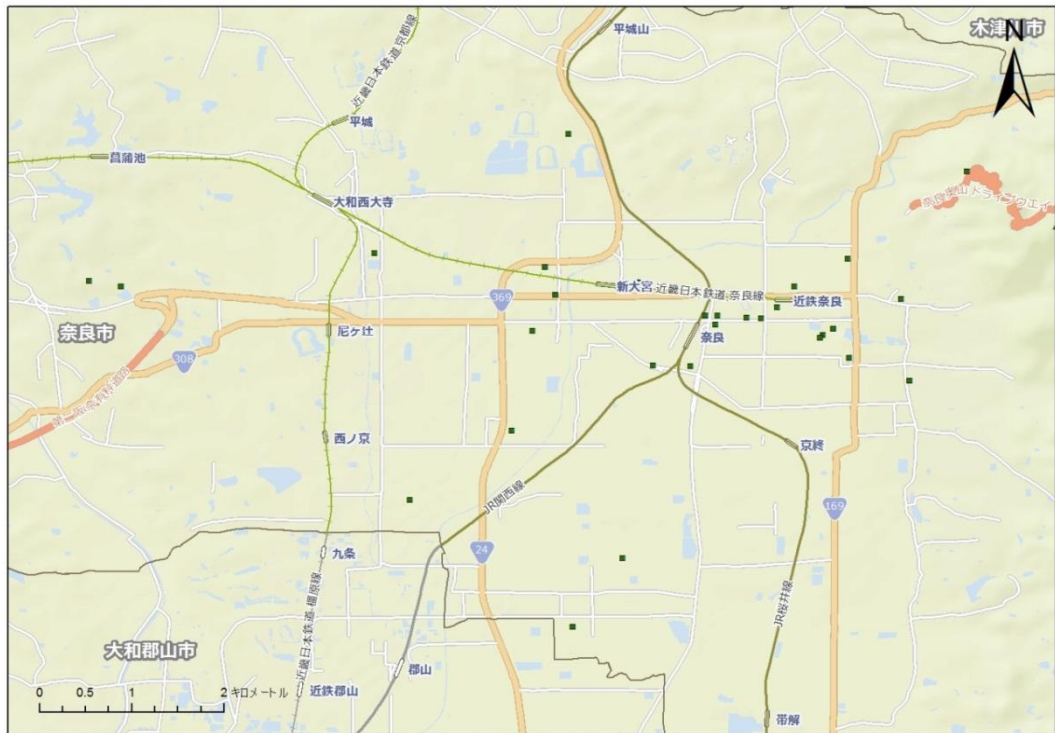


図5 奈良市におけるホテルの分布図（1994）

資料 NTT(1994年) 「タウンページ 奈良県 北部」より作成

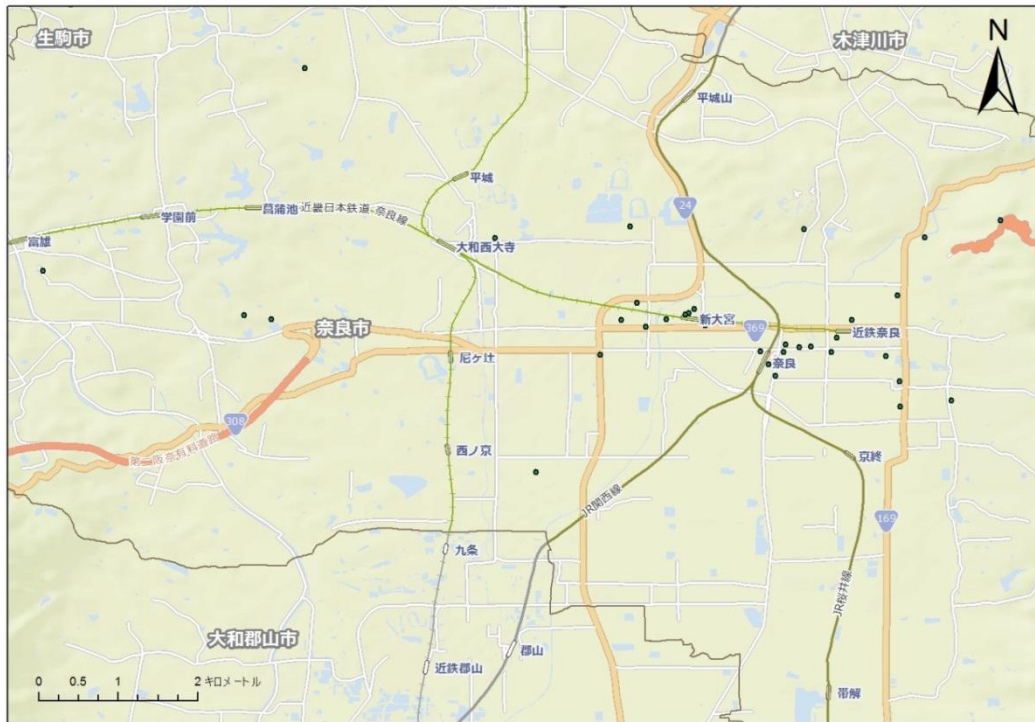


図6 奈良市におけるホテルの分布図（2014）

資料 NTT(2014年)「タウンページ 奈良市」より作成

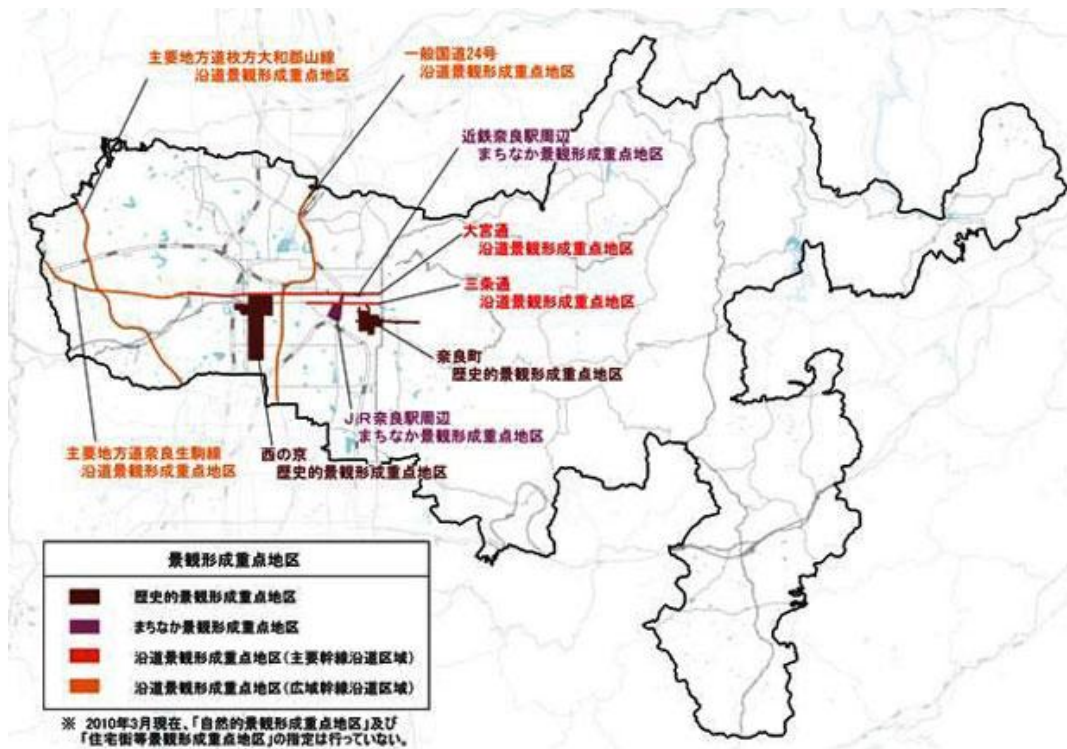


図7 奈良市 景観形成重点地区指定地区

資料 奈良市の景観施策より引用

奈良県では景観法において北部の歴史的な景観や南部の自然豊かな景観を守るための景観計画区域が指定されており、奈良市全域が景観形成区域となっている。景観法の一文には「良好な景観は、地域の自然、歴史、文化等と人々の生活、経済活動等との調和により形成されるものであることにかんがみ、これらの調和に配慮しながら、その整備及び保全が図られなければならない」（景観法第1章第2条第2項より）されている。そのため、景観法により本格的に建築が制限される景観形成重点地区（図7）である東大寺や興福寺などの近くにある近鉄奈良駅周辺では、新たなホテルなどは建造しにくいいため、JR奈良駅や奈良市の中心市街地に近い近鉄新大宮駅周辺にホテルが新たに建設されていったと考えられる。

また、新たに建設されたホテルの大半は東横インやスーパーホテルといったチェーン店である（表2）。このように、チェーン店が周囲が増えていったのも、JR奈良駅周辺と近鉄新大宮駅周辺の旅館の数の減少に拍車をかけたのではないかと考えられる。

表2 1994年以降に奈良市に建設されたホテルチェーン一覧（2014年）

資料 NTT（2014） タウンページ 奈良市より作成

ホテルエソール
ホテル日航奈良
コンフォートホテル奈良
山翠
スーパーホテル JR 奈良駅前
スーパーホテル奈良新大宮駅前
東横イン奈良新大宮駅前
かんぽの宿奈良
サンホテル奈良
スーパーホテル LOHASJR 奈良駅
奈良パークホテル
奈良ワシントンホテルプラザ
ファインガーデン宝来店
ファミリーロτζ旅籠屋・奈良針店
ホテルフジタ奈良

3. 奈良市の観光政策 奈良市には先に述べたようにホテルが増加しつつある。奈良市は宿泊客の増加を狙い、奈良市は市内を主に「平城宮エリア」「奈良公園エリア」「ならまちエリア」「西ノ京エリア」の4つのエリアにわけて、それぞれの魅力を伝えている（奈良市観光協会公式ホームページ モデルコースより）。その他にも宿泊客が楽しめるように、朝夕のイベントを増やしたりしている。具体的には、朝の奈良公園でホルンを弾き、鹿を集め

る「鹿呼せ」といった朝のイベントや、奈良公園周辺の歴史的建造物9カ所ライトアップする「ライトアッププロムナードなら」などの夜のイベントなどが挙げられる。その他にも、奈良市観光協会が事務局として行事運営を行っている「奈良大文字送り火」や、「薪御能」などの伝統行事への参画も挙げられる。更には一部の旅館には改築のために宿泊施設増改築・設備整備支援資金によって補助金を県が支給したり、外資系のホテルの奈良市への招致を行なったりと宿泊施設の増加にも力を注いでいる。また、4つのエリアの1つである「ならまち」では伝統的な町屋が多く残っているため、歴史的な街並みの保存・保全するために必要な町屋には都市景観形成地区建造物保存整備費補助金による補助金の交付や、一般的な町屋を復元し、そこを見学・休憩所として設置するなど歴史ある街並みを後世に伝えつつ、観光名所として活用しようとしている。

首都圏などにも旅行会社を通して観光PRをしているほか、修学旅行の誘致やアジアを重点的に海外にも奈良市をアピールしている。具体的には、諸外国の一般の方や企業にむけた日本政府観光局が主催するコンベンション施設での奈良市の紹介や、観光見本市への出展や見本市用の旅行商品の造成などである。これによる観光客数の増加に伴い、奈良市も受け入れ体制を整備している。例として観光案内所や無料の多言語コールセンターの設置、通訳スタッフを継続的に設置し、各ボランティア団体との協力などである。

4. 奈良市の宿泊施設の取り組み

実際に宿泊施設自体はどのような取り組みを行い、宿泊客を確保しようとしているのかを知るため、それぞれ違う層の客を集めている旅館とホテルに対してヒアリング調査を実施した。

最初に、松前旅館は外国人が多く泊まり、リピーターも多い旅館である。次にホテルニューわかさは修学旅行生が多く宿泊するホテルである。どちらもまずは客に対しての安心・安全を重視した上で、おもてなしの質を高めていこうとされたり、独自のサービスを作られていた。また松前旅館の女将さんは特別外国語が話せるというわけではなかった。それでもホスピタリティの質を高めて、価格競争などには参加せずに客の一人一人に満足してもらえるように心がけていた。このように、どちらもある程度は他の宿泊施設と差別化を図ろうとはしていたが、基本的には宿泊客に満足してもらえるように特別なことなどせずに基本的なサービスを行っていた。

5. まとめ

奈良市は1997年頃からホテルチェーンが多く参入し始め、チェーンではない個人経営のホテルや旅館の数は減少しつつあるが、客室の数は増加してきている。また、奈良市内にも東大寺などの奈良公園付近だけでなく平城京跡や薬師寺・唐招提寺などある西ノ京など魅力はたくさんある。その多くの歴史的な魅力を高めていき、大阪や京都とも違うような独自の道をすすむことが出来れば観光産業はまだまだ発展していくだろう。県や市が観光

招致を旅行会社やパンフレットを使い、奈良を PR して、宿泊客を増やしていくにつれて、奈良という地域にもチェーンホテルを出してもある程度の稼働率を見込めるようになった結果、客室数の増加につながった。また、国内からの観光客を増やすために、リピーターを増やすことが重要と考える。これは観光客にサービスの不満をつくらないことが大事だが、ヒアリングに行った松前旅館もホテルニューわかさも満足してもらうことに重きを置いていた。この精神をもとに奈良の歴史・文化の素晴らしさを伝えることが出来れば、リピーターだけでなく新規の観光客も誘うことができると考える。今後は多くの観光招致の影響で、日本はもちろん、海外からの観光客も増加していくだろう。奈良市は受け入れ体制を強化してきている上、宿泊施設も増加傾向にある。宿泊施設の増加は今後奈良の発展していく観光産業に大きく寄与していくものと考ええる。

注

- 1) 本稿での近畿とは、大阪、京都、奈良、兵庫、和歌山、三重、滋賀の7つである
- 2) 本稿ではタウンページのホテル欄にあった宿泊施設をホテル、旅館欄にあった宿泊施設を旅館としている

-付記-

本稿を作成するに当たり、奈良県観光局観光プロモーション課プロモーション推進係の辻勝式氏、奈良市観光経済部観光戦略課の櫻本義人・橋本教史氏、奈良県旅館・ホテル生活衛生同業組合の吉川義博氏、旅館松前の柳井尚美氏、ホテルニューわかさの下谷幸司氏には、お忙しい中にも関わらず大変お世話になりました。ここに記して厚く御礼申し上げます。

-文献-

「奈良県政報告会講演資料 2014年4月～奈良県政の今後～もっと良くなる奈良県を目指して～」

奈良市観光交流推進計画 (2014/12/20)

<http://www.city.nara.lg.jp/www/contents/1268186727173/files/kankoukeikau.pdf>

奈良県 HP

<http://www.pref.nara.jp/secure/112140/siryou1-kannkou02.pdf>(2014/12/20)

<http://www.pref.nara.jp/secure/24241/keikanzyourei.pdf>(2014/12/20)

奈良市観光協会 HP モデルコース

<http://narashikanko.or.jp/modelcourse/index.html> (2015/1/26)

奈良市 HP 奈良市の景観施策

<http://www.city.nara.lg.jp/www/contents/1233617040932/> (2015/1/26)

南都経済センター (2013) 観光地奈良におけるリピーター獲得の方法を考える ナント経済月報 2-13 (2015/1/26)

<http://www.nantoeri.or.jp/research/pdf/tokusyuu/201304-2.pdf>